

長崎高商・経済学部・母校史一覧表(「玄鶴」から「脈打つ瓊林群像」まで)

(2014/10/20)

符号	資料表題	著者・編纂者	種類 (番号)	頁数	刊行年	収録内容のポイント	本資料の特質と評価	編集理念形	所在
①	「玄鶴—長崎高商創立二十周年記念号」	長崎高商・同窓会編	雑誌 (分館)	P144	T14/5	同窓会(年次別発達史)・母校(施設・職員・就職先)・学生生活(学友会・趣味・住居)など 巻末には「普通選挙法」全文を掲げる	20回までの校長・教官・同窓生多数が寄稿され、開校草創期の歓喜・気迫・期待が誌面に 滲み出る。開校草創時の統計資料も貴重	母校草創	分館
②	「長崎高等商業学校三十年史」	長崎高等商業学校編	書籍 (2023)	P460	S10/10	明治・大正・昭和時代に区分し「概観・規定・施設・職員」を記述、昭和に「現況」を置く。 学友会・同窓会・学校年表等も網羅する	学校編纂による官製母校史の模範を示す。 規定・組織・学科・施設などを網羅し、学友会・同窓会への配慮も、母校の将来への想いも	母校興隆	2F交
③	「西陵50」—創立50周年アルバム	社団法人・瓊林会編 (19回・中山軍次)	写真集 (2024)	P40	S30/10	明治大正・昭和時代の(校舎・教官・学生生活)(郷土観光)写真を掲載、巻末に母校年表(M38-S30)を掲げる。写真説明もよい。	小冊子ながら100枚を超える写真(モノクロ)の 配列も巧みで、母校と青春を懐古する確かな アルバムとなっている。B5判縦配置。	母校青春	2F交
④	「長崎高商より経済学部へ六十年の歩み」	社団法人・瓊林会編	写真集 (2050)	P40	S40/10	旧校舎・研究館・東南ア研・校長・会長・教授 学生生活・観光の写真・文章に10頁の年表 も加え、S39年母校移転反対を再確認	写真と文筆を交互に配置したプレーンな 編纂に10頁の年表も加える。学部化して 16年目だが、本表の⑧までは高商一色。	移転反対	2F交
⑤	「憶い出の母校-65周年記念」 (裏面の「書影一覧」に含まず)	社団法人・瓊林会編	写真集 (860)	P20	S45/7	拱橋・旧校舎・研究館・教官・武藤文庫・石碑 等の施設に、歴代校長・学生生活の写真を 並べ、竣工した新校舎の姿も加える	60周年アルバムに倣った編集だが、B5判横 配置で、写真(カラー)の写真説明はなくて 表題のみ。	施設懐古	2F交
⑥	「暁星淡く瞬きて—長崎高商七拾年史」	社団法人・瓊林会編	書籍 (105)	P637	S50/9	創立・高商時代・学部と短大・教官と学友会 瓊林会の5部構成で、豊富な資料を鏝めた 百科辞書的な大著である。	数十名の高商同窓生が執筆した巨大母校史 最後の高商世代による渾身の編集。理念は 吾等自身の為の確かな母校礼賛。	母校礼賛	1F資
⑦	「長崎高商物語」	読売新聞・長崎支局	書籍 (773)	P395	S60/3	長崎高商時代の時々の挿話にまじえて、OB 数十名の個人歴を各時代の物語風に紹 介。人物写真も豊富に挿入されている	母校が学部へ転換して34年、長崎高商の記 憶が世間に埋没しない前二人々を語っておく プロの文章が滑らかで市民にも読み易い、	高商OB列伝	2F交
⑧	「90年1995」	社団法人・瓊林会編	写真集 (2045)	P68	H7/10	年表「最近20年の歩み」は大学院設置を巡 って、1977年以降20年の苦難を語る 行間に滲み出る当時の記録は大変貴重	会長を礼賛し募金協賛各社への謝礼を表す 90周年記念、大学院設置祝賀式向けパンフ 巻末に45頁にわたる賛助広告	会長礼賛	1F資
⑨	「長崎大学50年史・部局史・経済学部」	50年史刊行委員会編 (都野尚典・学部長)	書籍 (p238- p337)	P40	H11/3	文教地区移転問題・貿易科をファイナンスへ 総合経済学科コース制・大学院設置構想 などを、事務的に伶俐に叙述する	大学本部から見た母校の相対的地位の低 落が顕著。「経済学部の将来展望」は不透明	母校苦難	2F交
⑩	「脈打つ瓊林群像— 長崎大学経済学部100周年」	長崎新聞・編集局編	書籍 (106)	P233	H17/10	県内外・九州の経済人(82名)、行政政治・ 教育文化人など(22名)のOB個人の列伝。 長崎新聞(2003-05)連載記事の単行本化	創立100周年時に100余名の瓊林群像を紹介 (長崎高商～学部)の伝統と人脈を誇示	経済人礼賛	1F資
注記	<p>(A) 本表は私の選択により、瓊林会館・学部図書館・東南ア研書庫は所蔵する「母校史」に関する資料群を、発刊年月順に一覧表示したものである。</p> <p>(B) 本表「所在」欄の(記号)は当該書籍が会館内の何処に所在するかを示す。(1F資)(2F資)は夫々1・2階資料室。(2F交)は2階交流ルーム。(分館)は学部分館図書館、(友会)は瓊林友の会東京を示す。</p> <p>(C) 本表を通覧した印象では、高商世代の草創・興隆期の自信溢れる「母校愛」が、其後の「母校礼賛・母校懐古」を経て、現今では「伝統誇示・・経済人礼讃」に変質してきた感が強い。</p> <p>(D) (学卒新世代)の公益活動を含む、母校史のためには、「伝統誇示・経済人礼賛」形を措いて、自らのIdentityを確立する事が先決であり、新しいKEYWORD「明日を拓く」の実践が必要であろう。</p> <p>(E) 上記資料の書影は各頁を参照のこと。本表「種類」欄の(数値)は私製資料「瓊林会の本」(Excel-DataBase)の番号である。</p>								